

令和元年度 第1回 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：令和元年10月31日（木）14時00分から15時47分まで

と ころ：南魚沼市役所本庁舎 2階 大会議室

1 出席者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

枝村和枝委員、小林栄一委員、星麻衣副会長、森山右文委員

○湯沢町

井熊充委員、貝瀬健太副会長、高野理香委員、高橋淳夫委員

○南魚沼市

井上智明委員（欠席）、関聡会長、南雲純子委員（欠席）、樋口昌敏委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：企画政策課 岡部企画調整係長、平澤主任

●湯沢町

事務局：企画政策課 笛木企画係長

●南魚沼市

樋口総務部長

事務局：片桐企画政策課長、中島行革主幹、田中主任

2 議事

【1】開会 （進行：片桐企画政策課長）

【2】挨拶 （関会長）

【3】議事 （進行：関会長）

（1）共生ビジョンの変更について（説明：田中主任）

使用資料・・・資料1、資料2、資料3

関会長）事務局からの説明について、委員から意見はあるか。

委 員）斎場の相互利用の変更案（資料1、P13）について、大規模な自然災害で一度に多数の人が亡くなった場合を想定して、連携しておいた方がいいのではないか。

事務局）現状では、圏域内での同一条件での連携が難しい。また、相互の利用実績に一方的な偏りがある。大規模な災害が発生した場合には、状況に応じた対応を必要と認識している。

関会長）その他、特段のご意見・ご質問がなければ、共生ビジョン変更案について事務局案のとおりでよろしいか。

委 員）異議なし。

(2) 今後のスケジュールについて (説明：田中主任)

使用資料・・・資料4

関会長) 今後のスケジュールについて事務局案のとおり進めることでよろしいか。

委 員) 異議なし。

【4】その他 (進行：関会長)

関会長) 共生ビジョンの変更案だけでなく、共生ビジョン全体や圏域連携について、意見や質問はないか。

委 員) 共生ビジョンについて、一般市民への周知がされていないと感じる。何か取り組みを行っているのか。

事務局) 事務局としても周知不足を感じている。広報のワーキンググループを中心に努力する。

関会長) 共生ビジョンの連携事業の進捗は広報されているのか。また、議事録は公開されているのか。

事務局) 定住自立圏の枠組みでの広報していないが、事業担当からは広報をしている。また、議事録はウェブサイトで公開している。

関会長) UI ターンではどのようなことを行っているのか。

事務局) 県が行っている新潟 UI ターンフェアに共同参加をした。南魚沼市では、お盆の時期に首都圏の学生に向けた帰省バスを運行し、社内で地域の魅力及び民間企業のPRをした。魚沼市は、年末に首都圏の学生に向けた帰省バスを運行予定があり、湯沢町では有楽町で移住定住の相談会を開催する予定。

関会長) 南魚沼市の帰省バスに民間企業側で参加した。非常に良い取組だと思う。同じ幹線道路沿いなので、定住自立圏で連携した方が良い。

関会長) 産官学連携に関連し、南魚沼市で各高等学校、ハローワーク、民間企業による地域の人材創出コンソーシアムができる予定があり、就職ガイダンス前にキッズニアのような職業体験について話し合いがされている。2市1町で連携すれば大きなイベントにできると思うので連携事業の一環として検討いただきたい。

委 員) 魚沼基幹病院でもUターンイベントを行っている。帰省バスについて、南魚沼市市民病院や小出病院などでも一緒にできたらいいと思う。

委 員) 厚生労働省が再編の必要な公立病院のリストを公表した。定住自立圏の連携事業という取組よりも上のレベルの話だとは思いますが、早めに検討していく必要があると思う。

関会長) 医療再編などの話に関連するが、道路のインフラが整備されているので、インフラの利活用を踏まえ人口減少下での施設集約などが検討できればいいと思う。

委員) 圏域内のスキー場で、共通リフト券が発行できないか。圏域内のスキー場の魅力を内外へ発信するのに効果的であり、圏域内に住んでいる方にもメリットがある。また、魅力を発信することで、スキーが好きな若者へPRでき、移住・定住にもつながる可能性があると思う。

委員) 熊が多く出没しており、圏域内で猟友会へ補助することや市街地で麻醉銃を使用できる人材を育てるなどを検討していただきたい。

事務局) 各市町で大きな関心ごと。先日、南魚沼市、魚沼市、湯沢町の首長と知事と対面し、地域の実情を説明した。今後、県の対応を含め、警察等と連携しながら取組を進める。

委員) 新ごみ処理施設の進捗と来年度以降の進め方についてわかれば教えてほしい。

事務局) 1年前と状況は変わっていない。地元で丁寧に説明しながら進めているが、受け入れてもらえていない状況。最初に説明させていただいたところを候補地として説明を続ける。

関会長) 新ごみ処理施設について、プールや体育館などの施設を集約し、魅力的な総合的施設を誘致するという観点へ考え方を変えなければいけないと思う。「ごみ処理施設＝くさい・汚い」というイメージがあると進まないと思う。

委員) 持続可能な圏域のためには、インバウンドの取組も必要。観光窓口の連携事業などでインバウンドへの取組を考えていただきたい。また、尾瀬は国内観光客が多く、湯沢のスキー場ではインバウンドが多いというように国内観光客とインバウンドの2つの視点や、観光地ごと特性を踏まえて観光を検討してほしい。

事務局) ワーキンググループ会議では、それぞれの観光案内所等でアンケートを取るとしており、特性を考慮して検討していく。

関会長) 只見線は紅葉時期などの景色が良くいい路線だと思う。また、観光列車が流行っているので、観光列車に特化した車両を設け、地域の名産を振る舞うなどすれば儲けられると感じる。今は、小出駅が発発となり利用されにくいので、湯沢駅から出発するように利用しやすくていいと思う。

委員) 若い人に定住してもらうには、医療や就職先のように生きていくために必要なものがなければならないと感じた。具体的に連携事業を進めてもらいたい。

関会長) 生きるベースとなるものを維持することは大事。ごみ処理場や病院を含めて効率的・建設的な集約を検討してもらいたい。

事務局) 若い人の定住の話題があったが、南魚沼市の出生率について調べると一人の女性が生む子どもの数は10年前から減っていない。減っていないのになぜ人口が減少しているのかというと、出身者のUターン率が低く若い人、特に女性が減っている。このような状況を踏まえ、若い年代に向けた移住・定住施策を行い、行政も民間も関係なくオール魚沼圏域で取り組みたいと考えている。

関会長) 地域の人材創出コンソーシアムでも民間と官学を含めて検討しているので、協力して移住定住を考えてほしい。

委員) 若い人たちに残ってもらうには、小さいころからの教育が大切。小中学生のうちから地元の魅力・仕事を学ぶような教育を拡充・継続をしていただきたい。

関会長) 最近、学校では民間企業を入れた授業が行われており、具体的には国際情報高校で SDGs と関連付けて『魚沼学』を学んでいる。民間の方と一緒に授業をすると「地域を知りたい・好きになる」という学生が多くなると思うので、民間との連携も広域で取り組んだ方がいい。

委員) U ターンして戻ってくる際に課題に感じていたのは子育てのコミュニティや演劇などに触れる場があるのかどうかだった。当時、移住された人を中心として作られたコミュニティや活動の場があり非常に救われた。そのようなコミュニティや場が大事だと思う。地域の高齢者について、施設の人手不足などがあり、地域内で生活ができずに県外施設へ移動した事案がある。どこの職場も人手不足であり、募集しても応募がない。職場の魅力を発信できる仕組みが必要だと思う。情報発信では、他の業種とも一緒にやることで発信力や今までにないアイデアも生まれると思うので、行政や民間など一緒になり1つの形ができたらと思う。

関会長) 1人暮らしの高齢者がサービス付き高齢者住宅に集まったことから新たなコミュニケーションが生まれて高齢者が元気になった事例がある。行政で作ってみるのも面白いかなと思う。

委員) 都会に出ていった方々が圏域内に戻ってくると、田舎に対して思っていることや欲しい施設など、考えていることがあると思う。それらの思っていることを聞き出せる機会があるといい。また、若い人達は地域でどのような仕事があるのか知らないと思うので、地元の職場体験などで知ってもらう機会を検討いただきたい。

関会長) 都会の人が、何を思っているのか情報を集める手段は大事。帰省バスなどで「田舎には何が足りないか」を議題にして聞くのも良いのではないかな。

委員) スポーツイベントが多く行われており、幅広い年代の方々が参加されていることから、婚活に活かすことができたらいいと思う。

スポーツイベントの参加者は県外参加者が多く、地元出身者がイベント参加のために帰省することもある。スポーツイベントに合わせて U ターンイベントができたら効果的ではないか。

関会長) スポーツイベントの PR は良いこと。スポーツイベントは多くのお金が落ちるようになったが、10年程度経過し疲れが見られる。立ち上げ当初は30代の若者が「地域のため」と頑張ってきたが、「そろそろやめるか」と。スポーツイベントがなくなるのは寂し

いので、NPO を立ち上げて継続するなど息切れしない仕組みづくりを検討してほしい。どのスポーツイベントも儲かっているものが多いので、2市1町で連携したNPO を立ち上げて集約化するのはいかがか。現状では、立ち上げた方々が辞めていくためスポーツイベントがなくなると思う。

非常に多くの意見が出た。事務局からワーキンググループなどに伝えていただくことで、いい連携方法などが生まれるかと思うので検討いただきたい。以上で、意見交換を閉めさせていただく。

【5】 閉会（星副会長）

(15時47分閉会)